

## 「出張」

はや12月です。今年も忙しくさせていただきました。5月にコロナ感染症が5類になったことで、イベントや会議が以前のように開催されるが多くなり、私も外へ出る機会が増えました。

特に10月～11月にかけて、視察や会議で毎週のように東京などへ出張でした。国の予算編成作業を前に、各自治体や団体が国への陳情活動を活発に行います。11月の「安心安全の道づくりを求める全国大会」、「全国町村長大会」は特に全国から首長が東京に集結します。大会後、それぞれが議員会館、各省庁へぞろぞろと集団で陳情活動に回ります。永田町や霞ヶ関周辺は陳情活動の首長や議員の方々に溢れます。私も2回目の参加となりましたが、あの雰囲気は独特で、もはや長年続いている日本の文化のひとつなのかもしれません。

東京への出張はもちろん、のと里山空港からの飛行機です。今年を振り返ると、能登便を利用した出張は7回を数えました。少しでも搭乗率の向上に貢献できているのではないかと思います。

今、能登羽田便の搭乗率が伸び悩んでいます。のと里山空港は全国でも珍しい航空会社との間で搭乗率保証制度というものを設けています。一定水準の搭乗率を超えると航空会社が石川県に協力を支払い、下回ると石川県が航空会社に保証金を支払う仕組みです。開港以来ののと里山空港は高水準の搭乗率を維持し続け、保証金を支払ったこととはありません。

しかし、2023年は開港以来初めて搭乗率を下回る可能性が出てきました。石川県と空港周辺自治体が危機感を共有し、搭乗率向上につなげよ

うと先日でも対策会議が開催されたところです。穴水町にとつても、のと里山空港は無くてはならない空港だと思っています。離陸20～30分前に空港に来れば1時間足らずで羽田に到着する利便性は仕事や観光で利用する人にとって何にも代えがたいものだと思います。

これから冬に入り、観光客の利用が減少するシーズンになります。地元の方々の利用が欠かせないと思っています。今一度マイ空港の意識を再確認し、ご利用をお願いします。

師走に入り慌ただしさが増してきます。町では12月議会と来年度の当初予算編成に向けて準備作業が進んでいます。国の動向に注視しつつ予算執行に努めて参ります。私は明日、今年最後の出張で大阪に向かいます。残念ながら飛行機でなく車ですが。

Mayor Column Vol.20

町長コラム

筆おもむくままに

穴水町長 吉村 光輝

